

MS 151 TC

STIHL



2 - 33 取扱説明書



目次

1	はじめに.....	2
2	安全に関する重要事項.....	3
3	反発力.....	8
4	作業方法.....	9
5	カッティングアタッチメント.....	10
6	バーとチェーンの取り付け.....	11
7	ソーチェーンの張り方 (サイドチェーンテンション).....	12
8	チェーンの張り具合の点検.....	12
9	燃料.....	12
10	給油.....	13
11	チェーンオイル.....	15
12	チェーンオイルの給油.....	15
13	チェーンオイルの吐出点検.....	16
14	チェーンブレイキ.....	16
15	エンジンの始動と停止.....	17
16	作業中の注意事項.....	20
17	ガイドバーの保守.....	20
18	エアフィルターの掃除.....	21
19	キャブレターの調整.....	21
20	スパークプラグ.....	22
21	機械の保管.....	23
22	チェーン sprocket の点検.....	23
23	ソーチェーンの整備と目立て.....	24
24	整備表.....	28
25	磨耗の低減と損傷の回避.....	29
26	主要構成部品.....	30
27	技術仕様.....	30
28	特殊アクセサリ.....	31
29	スペアパーツのご注文.....	32
30	整備と修理.....	32
31	廃棄.....	32
32	EC 適合証明書.....	32
33	UKCA 適合宣言.....	33
34	アドレス.....	33

1 はじめに

この取扱説明書では STIHL チェンソーは機械と呼ばれる事もあります。

1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークは、この取扱説明書で説明されています。

機械および装置のバージョンによっては、次のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジン オイルの混合燃料



チェーンオイル用タンク、チェーンオイル



チェーンブレイキの作動および解除



コースティングブレイキ



チェーン移動方向



E マチック、チェーンオイル流量調整



ソーチェーンの張り



インテークエアバッフル: 冬季作業



インテークエアバッフル: 夏季作業



ハンドルヒータリング



デコンプレッションバルブの作動



パージャーパーンプの作動

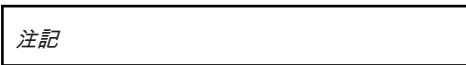


1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。



注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外觀が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 安全に関する重要事項



この特殊なチェーンソーは、特殊切断や作業テクニックの訓練を受けた作業者のみが使用する必要があります。



ハンドルの設計が特殊（ハンドルの間隔が狭い）なため、この種のチェーンソーを使用するときは、ケガの危険性が高まります（チェーンソーの不意の反動による切傷など）。チェーンの回転数が非常に高く、カッターが非常に鋭利であるため、チェーンソーで作業を行うときは、人身事故の危険を低減するために特別な安全措置が必要です。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに見られるような安全な場所に確実に保管してください。取扱説明書を順守しないと生命を脅かすようなケガを負いやすくなります。

2.1 一般的な注意事項

現地の安全規制、基準、条例を遵守してください。

騒音を発するパワーツールの使用が、国や地域の規則によって規制されている場合があります。

この機械で初めて仕事をする人は：STIHL サービス店または経験豊富なユーザーに機械の操作方法を教えてください、その専門的な研修に参加してください。

未成年者はチェーンソーを使用しないでください。ただし、トップハンドルチェーンソーを使用した特殊な突っ込み切り技術に関する訓練を受けた16歳以上の未成年者が作業する場合にはこの限りではありません。

作業場所に見物人、特に子供や動物を近づけないでください。

他者およびその所有物に対して生じた事故または危険に関しては、その一切の責任をユーザーが負います。

チェーンソーを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。作業者はすべて、トップハンドルチェーンソーによる作業に対する特殊なトレーニングを受講して、本機種構成と操作に精通するようにしてください。

チェーンソーで作業する人は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。激しい労働に耐えられない体調の方は、チェーンソーの使用前にかかりつけの医師に相談してください。

視界を妨げ、動作や判断を鈍らせるようなアルコールや薬品などを服用した状態では、チェーンソーを使用しないでください。

事故やケガを避けるために、天候が悪い場合（雨、雪、氷、風）は作業を延期してください。

ペースメーカーを付けている方のみ該当する
注意点：チェーンソーのイグニッションシステムは、微量の電磁界を発生します。この電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを軽減するため、ペースメーカーを装着された方は、パワーツールの使用前に掛かりつけの医師またはペースメーカーの製造元に、お問い合わせください。

2.2 正しい使用方法

トップハンドルチェーンソーは、上部ハンドルが付いた、特に樹木のメンテナンスや立木の樹冠での作業に適した特殊チェーンソーです。

樹木のメンテナンス作業は、適切な保護装置（高所作業台、作業者用保護装備、落下防止装置）を使用してのみ実施することができます。

チェーンソーは、木材や木製品の切断にのみ使用してください。

アイレットは、過負荷防止の付いたチェーンソーストラップを固定し、チェーンソーをベルトやロープに掛けて、木の上に運ぶために使用します。

チェーンソーをこれ以外の目的には使用しないでください - 事故の恐れがあります！

伐採作業や薪の準備には使用できません。これらの作業には、ハンドル間隔の長い従来のチェーンソーを使用する必要があります。

安全性が損なわれる可能性がありますので、いかなる方法でもチェーンソーを改造しようとししないでください。STIHLは、承認されていないアタッチメントを使用した際の人的傷害および物的損害に対しては一切保証を行いません。

チェーンソーは、小枝の剪定など、樹木のメンテナンス用に設計されています。そのため、標準装備ではバンパースパイクは搭載されていません。ただし、バンパースパイク（特殊アクセサリ）を取り付けることが可能です。

2.3 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体に合い、身体の動きを制約しない衣服を着用してください。だぶだぶな上着ではなく、足、脚、前腕に切断防止機能が付いた、身体にピッタリしたオーバーオールを着用してください。

枝、やぶ、または機械の可動部品に引っかかるおそれがある衣服を身に付けないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具を身に付けないでくだ

さい。長髪は結んでまとめてください（スカーフ、帽子、ヘルメット等に押し込んでください）。



適切な**安全靴** - 切断防止素材が使用され、靴底が滑らず、爪先に鋼板が入った靴 - を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、EN 166 基準に準拠した、確実にフィットする**保護メガネ**を着用してください。保護メガネが顔のサイズに合っているか確認してください。

フェイスシールドを着用し、適切にフィットしているか確認してください。

「自分専用」のイヤープロテクター - 例えば防音用耳栓 - を着用してください。

落下物の危険がある場所では、あご紐付きのヘルメットを着用してください。



耐性素材（革等）や切断防止素材でできた、丈夫な**保護手袋**を着用してください。

STIHL 社では、作業者を保護する多様な防護服と装備を販売しています。

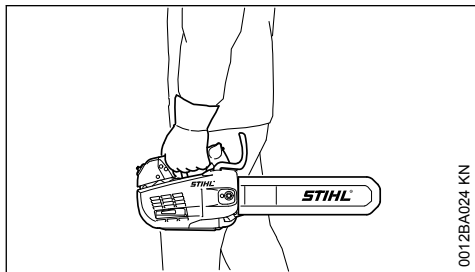
転落防止器具を使用してください。

用途に適した認定済の装備のみを使用してください。

毎回使用する前に装備の具合を点検し、損傷している部分があれば交換します。

2.4 運搬

チェーンソーを持ち運ぶときは、たとえすぐ近くまでであっても、常にエンジンを停止し、チェーンブレーキをかけ、チェーンガード（鞘）を装着してください。これにより、チェーンが予期せず始動する危険を避けることができます。



0012BA024 KN

チェーンソーはコントロール ハンドルを持ち、熱くなったマフラーを身体から離し、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。ひどい火傷を受

けないように、本機の熱くなった部分、特にマフラー表面などに触れないようにしてください。

乗り物で運搬する時：チェーンソーが倒れたり、燃料が流れ出たり、破損しないよう固定してください。

2.5 洗浄

プラスチック製部品は、布で掃除します。強い洗剤はプラスチックを損傷することがあります。

機械から、汚れや泥を取り除いてください - これには、グリース溶剤を使わないでください。

必要に応じて換気スロットを清掃します。

機械の清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強い流水で機械の部品を損傷する恐れがあります。

2.6 アクセサリー

当社が本機での使用を承認した、または技術的に同等の、ツール、ガイドバー、チェーン、チェーンスプロケット、またはアクセサリだけをご使用ください。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。高品質ツールおよびアクセサリだけをご使用ください。そうしないと、事故および本機の損傷の恐れがあります。

当社では、STIHL 純正のツール、ガイドバー、チェーン、チェーンスプロケット、およびアクセサリだけをご使用いただけますようお願いいたします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

2.7 燃料の給油



ガソリンは非常に簡単に引火します - 火気を近づけないでください - 燃料をこぼしたり、喫煙しないでください。

燃料を給油する前にエンジンを停止してください。

エンジンがまだ熱いうちは給油しないでください - 燃料が流れ出て**火災になることがあります！**

燃料フィルターキャップは、過剰な圧力が徐々に抜けて、燃料が噴き出さないように、慎重に開けてください。

給油は風通しの良い場所で行ってください。本機に燃料をこぼしたら直ちにふき取ってください。衣服に燃料をこぼさないでください - 汚れた衣服は直ちに着替えてください。

機械は標準として、次のフィルター キャップを装備することができます。

バイオネット式ファイラー キャップ (差し込み口ツク)



バイオネット式燃料タンクキャップ (差し込み口ツク) は正しく差し込み、止まるまで回してからバイオネットを下ろしてください。

正しく締め付けられていない燃料キャップがエンジンの振動によって緩んで燃料が漏れる危険を低減します。



燃料が漏れていないが注意してください！ 燃料がこぼれたり漏れている場合は、エンジンを始動しないでください - 火傷による命の危険があります！

2.8 始動前

チェンソーが操作の安全性を確保できる状態であることを確認します - 本取扱説明書の関連項目を参照してください：

- 燃料システムに漏れがないか点検します。特に燃料タンクキャップ、ホース接続部、手動燃料ポンプ(手動燃料ポンプ付きのチェンソーの場合のみ)などの目に見える部品を特に注意深く点検します。漏れや損傷がある場合は、エンジンを始動しないでください - **火災の危険があります！** 使用を開始する前に、チェンソーの修理点検をサービス店に依頼してください。
- チェンブレイキや前ハンドガードが正常に作動する
- ガイドバーが正しく装着されている
- ソーチェンが適切に張られている
- 吊り下げ穴が損傷していない
- スロットルトリガーとスロットルトリガーロックアウトがスムーズに作動して、放すとアイドリング位置に戻らなければなりません。
- マスターコントロールレバーが、スムーズに **STOP**、**0** または **0** に移動できるか。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているかチェックします - 緩んでいる場合は火花が発生することがあり、燃料と空気の混合物に引火する可能性があります - **火災の危険があります！**
- 操作部や安全装置に改造を加えないでください。
- ハンドルはオイルや汚れのない清潔な乾いた状態に保ちます - これはチェンソーを安全に操作するために重要です。
- 損傷していない吊り下げ穴の付いたチェンソーを使用します。
- 十分の燃料とチェンオイルがタンクに充填されていることを確認します。

チェンソーは、操作の安全性が確保されている状態でのみ操作することができます - **事故の恐れがあります！**

2.9 チェンソーの始動

チェンソーは、平坦な地面でのみ始動します。安定した足場を保ちます。チェンソーをしっかりと保持します。チェンの回転によってケガをするリスクを低減するため、カッティングアタッチメントが他の物体や地面に接触していないことを確認します。

チェンソーは一人で操作します。作業場所には、始動時であっても第三者を入れないでください。

ソーチェンが切り口に入っている状態で、チェンソーを始動しないでください。

樹木上でチェンソーを始動すると、作業者が制御できなくなる恐れがあり、とても危険です - **ケガの危険があります。**

トップハンドルチェンソーは樹木上に運ぶ前に、助手により地面で点検、給油、始動、暖機運転してください。

給油した場所から少なくとも 3m 離れて始動します。戸外に限ります。

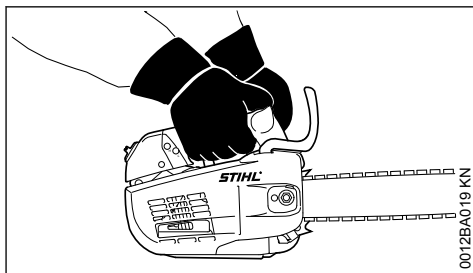
チェンが回転してケガする場合がありますので、始動する前は、チェンブレイキでチェンをロックしてください。

エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

2.10 作業中

樹木の中で作業する場合は、樹木メンテナンス向けトップハンドルチェンソーを常にロープで固定してください - 吊り下げ穴に固定し、安全ロープとつながぎます。チェンソーから手を放す前に、常にチェンブレイキをロックしてください。

吊り下げ穴にチェンソーストラップをかけて固定します。チェンソーストラップは、過負荷防止装置を備えている必要があります。適切なアクセサリーは専門店でお求めいただけます。



チェンソーを両手でしっかり保持してください - **事故の危険があります！** 左利きの場合でも右手でコントロールハンドルを握ります。安全操作のため、ハンドルバーとハンドルを手の



ひらで包むように親指を使ってしっかりと握ってください。

片手操作は特に危険です。乾燥し、こぶだらけの朽ち木を切るときは、正しく切り込みできなくなることがあります。反発力が発生して、枝の上をチェーンが滑ったり跳ねたりして、コントロールできなくなることがあります。**キックバックの危険 - 致命的なケガを負う危険性があります！**

トップハンドルチェーンは、次の場合にのみ片手で操作出来ます：

- 両手で使用することが不可能な場合
- 作業位置を確保する為に、片手を使用する必要がある場合
- チェンソーをしっかりと保持している場合
- 身体のどの部分もチェーンの旋回範囲に触れるおそれがない場合

片手切断操作時の注意事項：

- 切断対象の枝にもたれかからない
- バーの先端で切断作業しない
- 落下する枝を握ろうとしない

しっかりと安定した足場を常に確保してください。剥いだ皮が湿っている時は、特に注意してください - **滑る危険があります！**

差し迫った危険や緊急時には、直ちにエンジンを停止します - マスターコントロールレバー/停止スイッチを **STOP**、**0** または **0** の方向に動かします。

チェンソーを作動させたまま、本機から離れないでください。

滑りやすい場所、濡れた地面、雪、氷、傾斜、凸凹のある地面、最近皮を剥がれた木や樹皮には特に注意してください - **滑る危険があります！**

木の切り株、根、溝などに特に注意してください - **つまずく危険があります！**

一人だけで作業せず、事故があった場合に備えて、近くに応急処置の訓練を受けた人がいて声を出せば助けに来られるようにします。切断作業現場での補助者も保護具を着用し、切断された枝が当たらないところまで下がっているようにします。

イヤープロテクター（張力保護具）を装着している場合は、より高い注意力が必要で - 危険を告げる音（叫び声、警笛など）が聞こえにくくなります。

疲労が蓄積しないように、適切な時期に休息をとってください - **事故の恐れがあります！**

切断作業中に発生する塵埃（木屑など）、噴煙、煙は、健康を害する恐れがあります。塵埃が発生する場所では、防塵マスクを着用してください。

エンジン運転中：スロットルトリガーを放しても、フライホイール効果により、ソーチェンは長時間回転し続けます。

チェンソーの使用中小およびその近くでは**喫煙しないでください - 火災の危険があります！**燃料システムから発火しやすいガソリン蒸気が漏れている恐れがあります。

ソーチェンは、短い間隔で定期的な点検し、顕著な変化が生じた場合には直ちに点検してください：

- エンジンを停止し、ソーチェンが完全に停止するまで待ちます。
- 状態としっかりと固定されているかどうかを確認します。
- 切れ味に注意します。

エンジンがかかっているときは、ソーチェンに触れないようにしてください。ソーチェンに障害物が挟まった場合、障害物を取り除こうとする前に、直ちにエンジンを停止してください - **ケガをする危険があります！**

チェンソーをそのままにして離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。

ソーチェンを交換する前に、エンジンを停止させます。エンジンが予期せずに回転し始めることがあり、**ケガをする危険があります！**

着火しやすい材質（例えば、木屑、樹皮、乾燥した草、燃料など）は高温の排気の流れや熱いマフラーから遠ざけてください - **火災の危険があります！**触媒コンバータ付きマフラーは特に高温になりがちです。

チェンを適切に潤滑せずにチェンソーを絶対に作動させないでください。オイルタンク内のオイルレベルに注意してください。オイルタンク内のオイルレベルが低くなりすぎた場合、作業を速やかに停止し、チェンオイルを充填してください - 「チェンオイルの充填」および「チェンの潤滑の点検」も参照してください。

チェンソーに、設計強度を超える異常な負荷（激しい衝撃や落下など）がかかった場合は、チェンソーが操作の安全性を確保できる状態にあることを、作業を続ける前に必ず確認してください - 「始動前」の項目も参照してください。

特に、燃料システムに漏れがないことを確認し、安全装置が正しく機能していることを確認してください。安全な操作ができないチェンソーは決して使用し続けしないでください。不明な点がある場合は、サービス店にご問い合わせください。

スロットルトリガーを放した時にソーチェンがそれ以上動かないように、エンジンが正しくアイドリングしていることを確認してください。ア

イドリング調整を定期的に点検および修正してください。それでもアイドルリング中にソーチェンが回転する場合は、サービス店に点検と修理を依頼してください。



チェンソーはエンジンが始動するとすぐに、有毒な排気を発生します。このガスは、無臭で目に見えないことがあります。未燃焼の炭化水素とベンゼンを含んでいることがあります。室内や換気状態の悪い場所では、絶対に機械を使用しないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

溝、くぼ地、あるいは狭い場所で作業する時には、適切な換気を確保してください - **有毒ガスを呼吸することによる命の危険があります！**

気分が悪くなったり、頭痛、視界が狭くなるなど視力の障害、聴力の障害、めまい、集中力の低下などを感じたら、即座に作業を停止してください。濃度の高い排気ガスを吸い込むことで、これらの症状が現れることがあります - **事故の恐れがあります！**

2.11 作業後

エンジン切り、チェンブレイキをかけ、チェーンガードを取り付けます。

2.12 保管

機械を使用しない時は、他人に危険が及ばないように保管します。不正な使用ができないよう、機械を固定します。

機械を安全な乾燥した部屋に保管してください。

2.13 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護(暖かい手袋)
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質(症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く)。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ(握む力が強いと血行が低下します)。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状(指のしびれ等)が繰り返し発症する時は、医師による診断をお勧めします。上記のいずれかの症

状が現れたら(指が疼くなど)、医師にご相談ください。

2.14 整備と修理

修理、清掃または整備作業およびチェンに対して作業を行う前に必ずエンジンを切ります。エンジンが不意に始動すると、**怪我をする危険があります！**

例外: キャブレター調整およびアイドルリングスピード調整時は、このかぎりではありません。

本機は定期的に整備する必要があります。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は、販売店に依頼してください。

当社では、整備や修理を STIHL 認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。STIHL 販売店では定期的にトレーニングを受け、適切な技術情報の提供を受けています。

高品質のスペアパーツのみを使用します。そうしないと、事故および本機の損傷の恐れがあります。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

いかなる方法でも本機を改造しないでください。人身への傷害の危険性を増加させることがあります - **事故の危険があります！**

スパークプラグターミナルを取り外したり、スパークプラグを緩めたまま、スターターでエンジンを始動すると、シリンダー外部でイグニッションスパークが生じて**火災の危険**があるので、その前にマスターコントロールレバーを **STOP、0** または \downarrow に移動してください。

火気の近くで調整したり保管しないでください - 燃料を搭載していますので、**火災の恐れ**があります。

燃料キャップがしっかりと閉まっていることを、定期的に点検してください。

欠陥のない、当社が承認したスパークプラグのみを使用します - 「技術仕様」を参照してください。

イグニッションケーブルに異常がないこと(絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに問題が無いことを確認してください。

破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま、本機を使用しないでください。**火災の恐れや聴力への害があります！**

絶対に加熱されたマフラーに触れないでください - **火傷の危険があります！**

防振装置の状態は振動動作に影響します - 防振装置を定期的に点検してください。

チェーンキャッチャーを点検してください。破損している場合は交換します。

エンジンを停止します

- チェンの張りの点検
- チェンの張り直し
- チェンの交換
- 不具合の修正

目立てに関する注意事項を守ってください。安全にかつ正しく取り扱うため、チェーンとガイドバーを完全な状態に保持します。正しく目立てをして、張りを調整し、十分に潤滑する必要があります。

チェーン、ガイドバー、チェンスプロケットを適切な時期に交換します。

クラッチドラムの動作状態が完全であることを定期的に確認してください。

燃料とチェーンオイルを指定された容器でのみ保存し、正しくラベル付けします。光および日光から保護された、乾燥した、涼しい、安全な場所に保管します。

チェーンブレイキに不具合が発生した場合、機械を即座に停止します。**ケガの危険があります！**

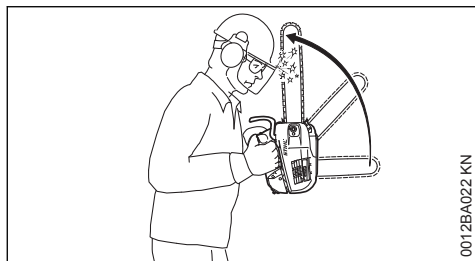
STIHL サービス店にお問い合わせください - 不具合が改善されるまで、機械を使用しないでください。「チェーンブレイキ」の項を参照してください。

3 反発力

切断中に生じる最も一般的な反発力は、キックバック、ブッシュバック、プルインです。

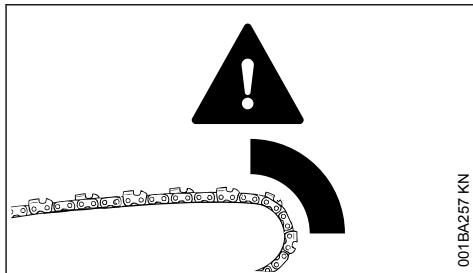
3.1 キックバックの危険

キックバックによって重傷や致命傷を負うおそれがあります。



キックバックとは、次のような状況下で、チェーンソーが制御できない状態で作業者に向かって唐突に跳ね返ってくる現象を指します。

3.2 キックバックが発生しやすい状況



- ガイドバー先端の上部 1/4 部分を意図せずに樹木や硬い物体に接触させた (例えば、枝払い中に別の樹木に偶発的に接触した場合)。
- 切断中にガイドバー先端部でチェーンが切り口に挟まれた。

3.3 クイックストップチェンブレイキ：

この機能は、一定の状況下でケガの危険を低減しますが、キックバック自体を防ぐことはできません。作動すると、ソーチェーンがチェンブレイキによって瞬時に停止します。

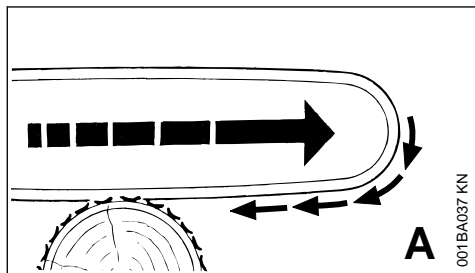
この取扱説明書の「ソーチェーン」の項を参照してください。

3.4 キックバックの危険を低減するには

- 慎重に作業し、キックバックが起こるおそれがある状況避けます。
- チェンソーを両手で確実に保持し、ハンドルを着実に握ります。
- 常にフルスロットルで切断します。
- 常にガイドバー先端部の位置に注意を払います。
- バーの先端では切断しないでください。
- チェンが挟まれるおそれがあるため、細くて固い枝には特に注意してください。
- 絶対に一度に数本の枝を切断しないでください。
- 腕を伸ばしすぎないでください。
- 肩の高さより上にあるものを切断しないでください。
- 途中まで切断した樹木を再度切断するときは、十分に注意してガイドバーを切り口に入れてください。
- 経験がない場合は、突っ込み切りは行わないでください。
- 丸太が動いたり、他の力が加わったりして切り口が閉じ、チェーンが挟まるおそれがあるため、注意してください。

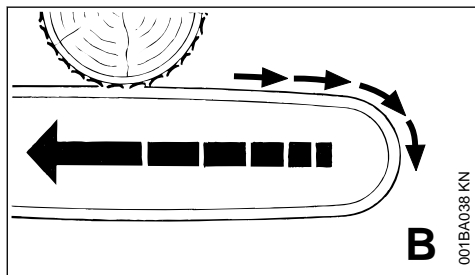
- 必ず適切に目立てされ、張りが適正なチェーンを使用して作業を行います。デプスゲージの設定が大きすぎないか確認してください。
- キックバックを低減するソーチェーンや、先端径が小さいガイドバーを使用してください。

3.5 プルイン (A)



プルインは、作業中にバー底部のチェーンが突然、樹木に挟まったり、引っかかったり、樹木内の異物に当たったりしたときに発生します。チェーンの反動によりチェーンソーが前方に引かれます。STIHL は、繊細でない木材の作業には爪止めを後付けし、チェーンソーを安全に取り付けることを推奨しています。

3.6 プッシュバック (B)



プッシュバックは、作業中にバー上部のチェーンが突然、樹木に挟まったり、引っかかったり、樹木内の異物に当たったりしたときに発生します。チェーンの反動により、チェーンソーが作業者の方にまっすぐに跳ね返ってきます。この危険を防ぐには、：

- ガイドバーの上部が挟まる可能性がある状況に注意してください
- 切り口の中でガイドバーをねじらないでください。

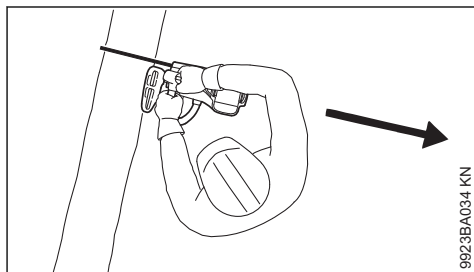
4 作業方法

4.1 鋸断

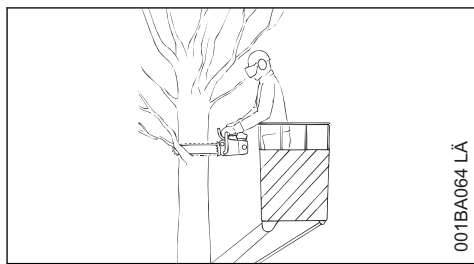
始動スロットル位置ではチェーンソーによる切断作業を行わないでください。この位置では、エンジン回転数を調整できません。

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なとき以外は作業を行わないでください。他者に危険が及ばないか確認し、常に注意を怠らないでください。

できる限り短いガイドバーを使用します。組み合わせが適切で、お使いのチェーンソーに適合するチェーン、ガイドバー、チェンスプロケットを使用してください。



身体がカッティングアタッチメントに触れない位置にチェーンソーを位置決めします。



可能ならば、リフトバケットから作業してください。

はしごや他の不安定な台に乗った作業や、肩の高さ以上での作業は、絶対に行わないでください。

枝の落下による第三者のケガや物的損害（自動車など）の危険を低減するため、作業場所への出入りを遮断してください。

命綱を使用した作業時は、命綱を切断してしまうリスクがあります。落下して負傷する危険を低減するために、必ず予備の命綱を使用してください。

太い枝の切断時は、特に注意してください。機械をしっかり保持し、切断時にかかる力をコント

ロールし、反動に備えます。切断が完了すると、チェーンは切り口内でカuttingアタッチメントによって支持されなくなります。チェーンの全重量を支える必要が生じます。**支えないと、制御を失うおそれがあります！**

チェーンを異物に接触させないように注意してください。石やクギなどが飛散し、ソーチェンが損傷するおそれがあります。チェーンが偶発的にキックバックすることがあります - **事故が起きる危険があります！**

回転中のソーチェンが石や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、特定の条件下では燃えやすい物質が引火するおそれがあります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合は、燃えやすい物質、乾燥した植物、低木の付近でチェーンソーを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄森林管理事務所にお問い合わせください。



注意！ 感電の危険を避けるために、電線の付近での切断作業には特に注意してください。電線のすぐ近くで切断作業を行うときは、電線の電源を遮断してから作業に着手してください。

ぶら下がった枝を下側から切断しないでください。**チェーンが挟まってキックバックが発生し、制御できなくなることがあります。**

低木や若木の場合は、注意してください。枝がチェーンソーによってすくい上げられ、作業者へ向かって跳ね返る可能性があります。

裂けた樹木の切断時は注意してください。**木片が飛散してケガをするおそれがあります！**

切断が完了した後、他の位置に移動する前にチェーンブレイキでチェンをロックするか、エンジンを切ります。

作業方法

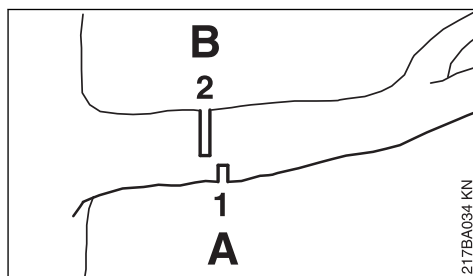
チェーンをフルスロットルにしてから切断を開始してください。

- 必ずチェンを回転させた状態でチェーンソーを切り口から引き抜いてください。
- 細い枝は真すぐに切断します。
- 太い枝は、最初に下側から負荷軽減カットを入れ（直径の約 1/5）、次に上側から切り込みます。
- 重い枝はロープで支えます。

ソーが切り口に挟まった場合

- エンジンを切り、チェーンソーを幹の方向の樹木に固定します。
- 必要に応じて別のチェーンソーを使用し、切り口からチェーンソーを慎重に解放します。

張力の掛かった大枝：



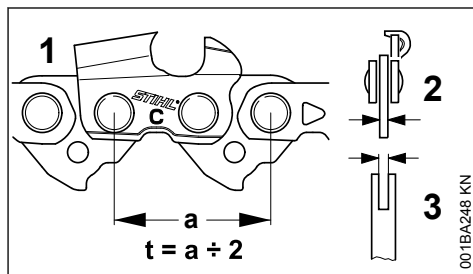
- ▶ 常に、まず圧縮側 (A) に負荷軽減カットを入れます(1)。
- ▶ 次に、張力側 (B) を幹の方向に玉切りします(2)。そうしないと、キックバックやソーが挟まる危険があります。

他の方法がない場合のみ、下側から上側に向けて玉切りします。**プッシュバックに注意してください。**

5 カutting アタッチメント

カuttingアタッチメントは、ソーチェン、ガイドバー、チェンスプロケットで構成されています。

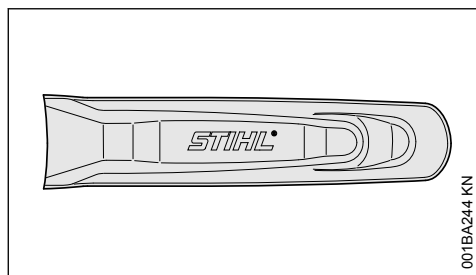
標準仕様のカuttingアタッチメントはチェーンソーに合致するように設計されています。



- ソーチェン (1) のピッチ (t) を、チェンスプロケットやローマチックガイドバーのノーズスプロケットのピッチと適合させてください。
- ソーチェン (1) のドライブリンクゲージ (2) はガイドバー (3) の溝幅と一致させてください。

適合しないコンポーネントを使用すると、カuttingアタッチメントは短時間使用しただけで修理不可能なほどに破損してしまうことがあります。

5.1 チェンガード



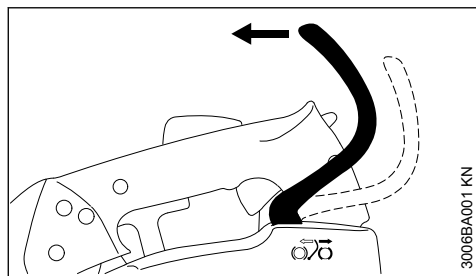
チェンソーはカッティングアタッチメントに適合するチェンガードが標準装備で同梱されます。

異なる長さのガイドバーがチェンソーに取り付けられている場合、常に正しい長さのチェンガードを使用してガイドバーを完全に覆うようにする必要があります。

適合するガイドバーの長さは、チェンガードの側面にマークされています。

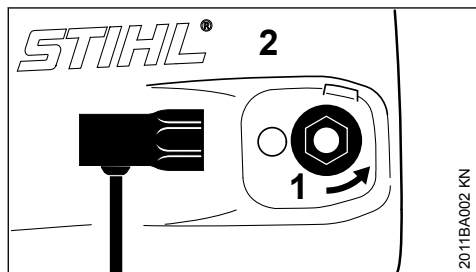
6 バーとチェンの取り付け

6.1 チェンブレーキの解除



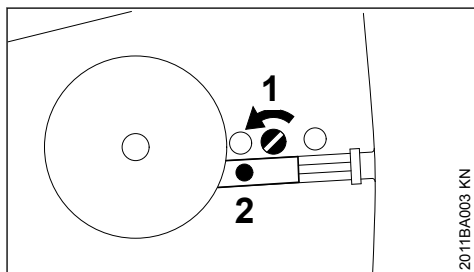
▶ カチッという音がするまでハンドガードを前ハンドルの方向に引きます。チェンブレーキが解除されます。

6.2 チェンスプロケットカバーの取り外し

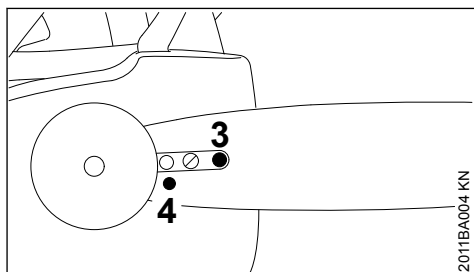


▶ ナット (1) を取り外し、チェンスプロケットカバー (2) を取り外します。

6.3 ガイドバーの取り付け



▶ テンションスライド (2) がハウジングスロットの左端に当たるまでスクリュー (1) をまわします。



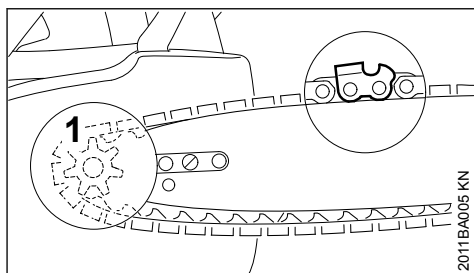
▶ ガイドバーをスタッド (3) に取り付け、テンションスライドのベグを (4) にはめ込みます。

6.4 ソーチェンの取り付け

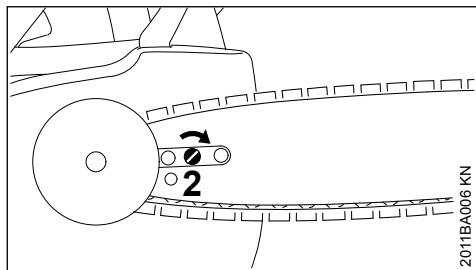


警告

鋭利なカッターから手を保護するために作業用手袋を着用してください。

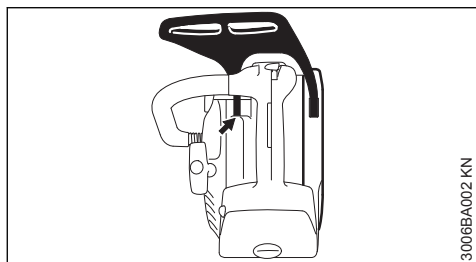


▶ チェンをスプロケット (1) からガイドバーに沿って取り付けます。ガイドバー上側の刃先をバーの先端方向に向けてください。



2011BA006 KN

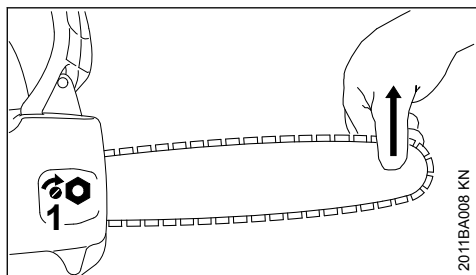
- ▶ バー下側のチェーンのたるみがほとんどなくなるまで、スクリュー (2) を時計回りにまわします。ドライリンクがガイドバーの溝にかみ合っているか確認してください。



3006BA002 KN

- ▶ スプロケットカバーを取り付けます。ハンドガードのピボットピンをエンジンハウジングのガードにはめてください。次に、ナットをスタッドに取り付け、手で軽く締めます。
- ▶ 「ソーチェーンの張り方」の章を参照してください。

7 ソーチェーンの張り方 (サイドチェン テンシヨナ)



2011BA006 KN

切断作業の合間に再調整する場合：

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ ナットを緩めます。
- ▶ バーの先端を上に向けて保持します。
- ▶ スクリュードライバーでテンショニング スクリュー (1) を時計回りに回し、チェーンがバーの下側に軽く触れるまでチェーンを張ります。

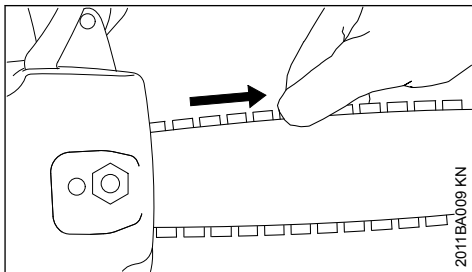
- ▶ バーの先端を持ち上げたまま、ナットをしかりと締めます。

- ▶ 「チェーンの張り具合の点検」に進みます。

新品のチェーンは、しばらく使用したものよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- ▶ チェーンの張り具合を頻繁に点検してください - 「作業中の注意事項」の章を参照してください。

8 チェーンの張り具合の点検



2011BA009 KN

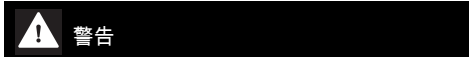
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ 作業用手袋を着用して手を保護してください。
- ▶ チェーンは、バーの下側に軽く触れ、チェンプレキを解除した時に、手でバーに沿って引くことができる程度に張ります。
- ▶ 必要ならば、チェーンを張り直してください。

新品のチェーンは、しばらく使用したものよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- ▶ チェーンの張り具合を頻繁に点検してください - 「作業中の注意事項」の章を参照してください。

9 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

9.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最大化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

9.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

9.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

9.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

9.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください(オイル 1 に対してガソリン 50)。

9.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

9.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短期間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。

警告

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

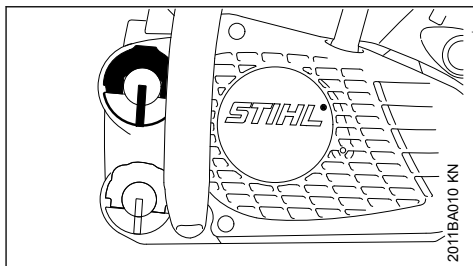
▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

10 給油



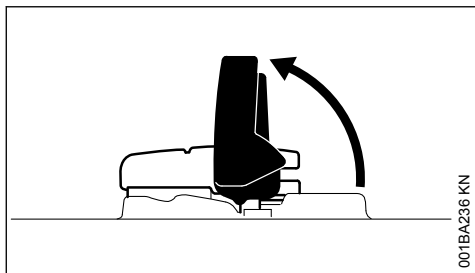
10.1 準備



▶ 給油する前に、汚れが燃料タンクの中に入るのを防ぐため、フィルターキャップとその周りをきれいにしてください。

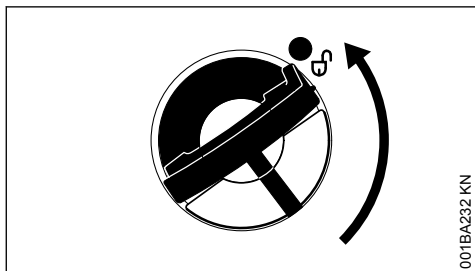
▶ タンクの注入口が上を向くように本機を置いてください。

10.2 キャップの開け方



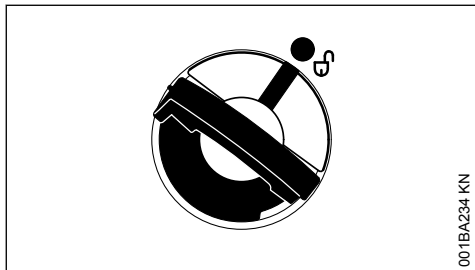
001BA236 KN

- ▶ グリップを垂直位置まで起こします。



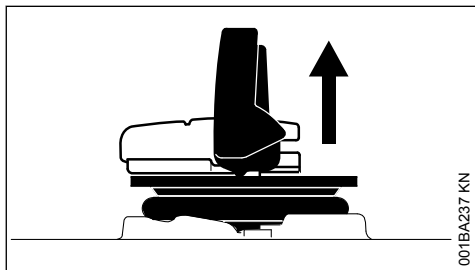
001BA232 KN

- ▶ キャップを反時計回りに回します (約 1/4 回転)。



001BA234 KN

タンクキャップと燃料タンクのマークが合いません。



001BA237 KN

- ▶ タンクキャップを取り外します。

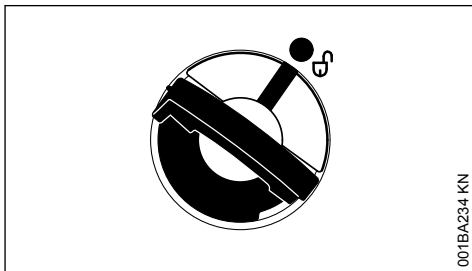
10.3 燃料の給油

給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。

STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

- ▶ 燃料タンクに給油します。

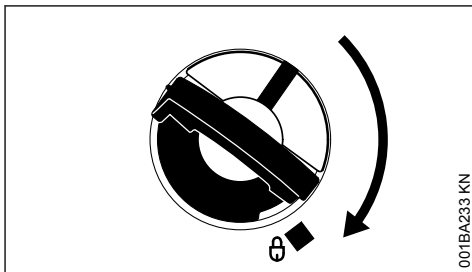
10.4 キャップの閉め方



001BA234 KN

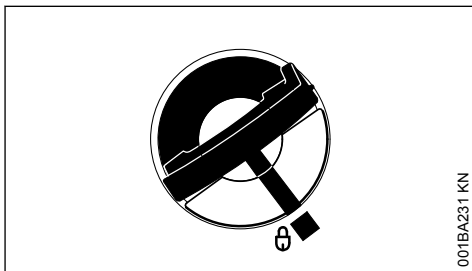
グリップを垂直位置に合わせます：

- ▶ キャップを取り付けます - タンクキャップと燃料タンクのマークを合わせてください。
- ▶ キャップを止まるまで押し下げます。



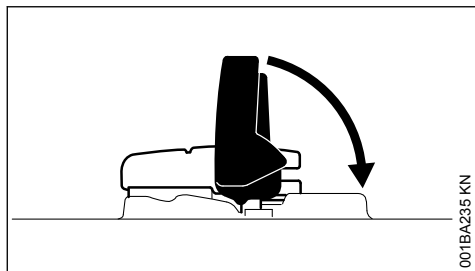
001BA233 KN

- ▶ キャップを押し下げたまま時計回りに回し、所定の位置にはめ込みます。



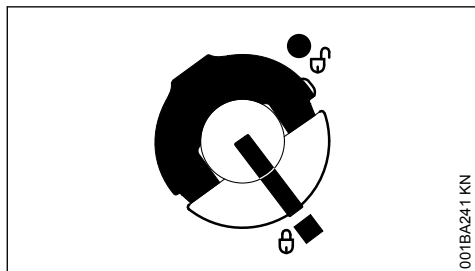
001BA231 KN

タンクキャップと燃料タンクのマークが合います。



001BA235 KN

- ▶ グリップを倒します。



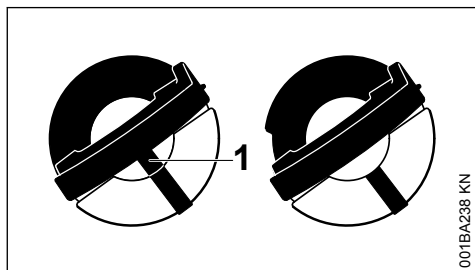
001BA241 KN

タンクキャップがロックされます。

10.5 タンクキャップを燃料タンク開口部にロックできない場合

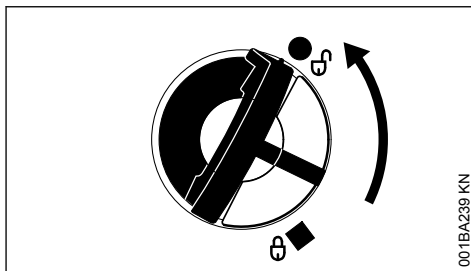
キャップ下部が上部に対してねじれています。

- ▶ 燃料タンクからキャップを外し、上から見て点検します。



001BA238 KN

- 左側： キャップ下部がねじれています - 内側マーク (1) が外側マークに合っています。
- 右側： 適切な位置のキャップ下部 - 内側マークがグリップの下にあります。外側マークとは合っていません。



001BA239 KN

- ▶ キャップを開口部に取り付け、フィルターネックにかみ合うまでキャップを反時計回りに回します。
- ▶ キャップをさらに反時計回りに回します (約 1/4 回転) - キャップ下部が正しい位置に合います。
- ▶ キャップを時計回りに回し、所定位置にロックします - 「キャップの閉め方」の項を参照。

11 チェン オイル

チェンとガイドバーの自動的で信頼性のある潤滑のため、環境に優しい高品質チェンオイルだけを使用してください。生分解が速いスチールバイオプラスをお勧めします。

注記

生分解性チェンオイルには、充分な耐劣化性が必要です (スチールバイオプラス等)。耐劣化性に乏しいオイルは、樹脂化が速い傾向にあります。その結果、特にチェン駆動部やチェンに蓄積物が固着し、除去しにくくなります。オイルポンプが故障する原因ともなります。

使用するオイルの品質は、ソーチェンとガイドバーの寿命に大きく影響します。従って、必ず専用のチェンオイルだけを使用してください。

警告

廃油を使用しないでください! 廃油は、長期間繰り返し肌に触れると、皮膚ガンを引き起こすことがあります。さらに、環境に害を与えることがあります!

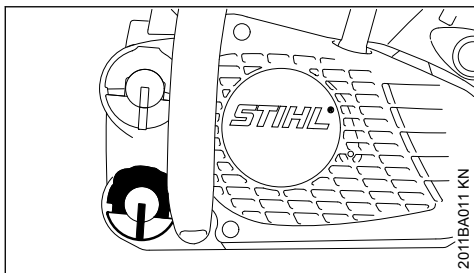
注記

廃油には必要な潤滑特性がなく、チェンの潤滑には適していません。

12 チェン オイルの給油



12.1 準備



- ▶ ゴミがタンクの中に落ちないように、フィルターキャップとその周辺の汚れをきれいに拭き取ります。
- ▶ タンクの注入口が上を向くように本機を置いてください。
- ▶ フィラーキャップを開きます。

12.2 チェン オイルの給油

- ▶ 燃料を補給する度に、チェンオイルを給油します。

給油の際にはチェンオイルをこぼさないようにし、またチェンオイルをタンクいっぱいに入れないでください。

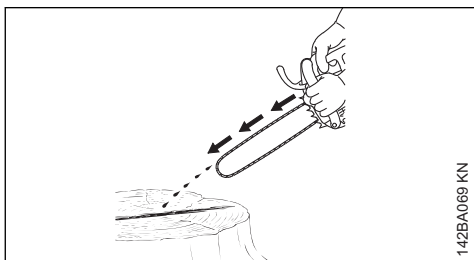
当社ではチェンオイル用スチール フィラー ノズル (特殊アクセサリー) の使用をお勧めします。

- ▶ タンク キャップを閉じる

燃料タンクが空になっても、オイルタンクにはオイルが少量だけ残ります。

タンク内のオイル量が減らない場合は、オイル供給システムが故障している可能性があります。チェンの潤滑状態を点検し、オイルの通路をきれいにしてください。必要な場合はスチール サービス店にお問い合わせください。当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

13 チェン オイルの吐出点検



ソーチェンは、常に少量のオイルを飛散させる状態に潤滑されている必要があります。

注記

本機は、必ずチェンを潤滑して使用してください。ソーチェンを乾いたまま回転させると、カッティングアタッチメントがすぐに損傷し、修理が不能になります。作業開始前に、常にチェンの潤滑状態とタンク内のオイル量を点検してください。

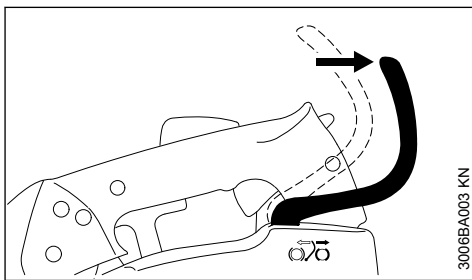
新品のソーチェンには 2~3 分間の慣らし運転が必要です。

ソーチェンの慣らし運転後、ソーチェンの張り具合を点検し、必要に応じて再調整してください。「ソーチェンの張り具合の点検」の項を参照してください。

14 チェンブレーキ



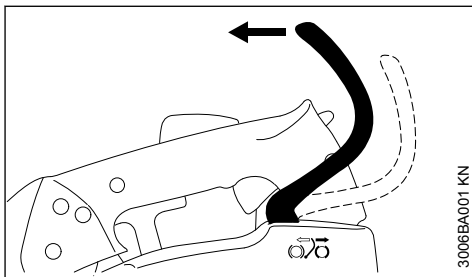
14.1 チェンのロック



- 緊急時
- 始動時
- アイドリング時

左手でハンドガードをバー先端に向かって押すか、または一定のキックバック状況下の慣性力を利用して、チェンブレーキを作動します。チェンが停止して、ロックします。

14.2 チェンブレーキの解除



- ▶ カチッと音がするまで前ハンドル方向にハンドガードを引きます - チェンブレーキのロックが外れます。

注記

エンジンを加速して、切断作業を開始する前(動作確認時は除く)にチェンブレーキのロックを解除します。

チェンブレーキがロックしている状態(ソーチエンは静止した状態)でエンジン回転数を高くすると、短時間でエンジンやチェン駆動部(クラッチ、チェンブレーキ)が損傷します。

また、チェンソーのキックバックの力が大きいと、前ハンドガードの慣性力が働き、チェンブレーキが作動します。ハンドガードはバーの先端に向かって力を受けます。

チェンブレーキは、ハンドガードを全く改造していない場合にだけ作動します。

14.3 チェンブレーキの作動点検

始動前：エンジンのアイドルリング回転時に、チェンブレーキを作動させ(ハンドガードをバー先端方向に押します)、短時間(最長3秒間)スロットルを全開にします - チェンが回転してはいけません。ハンドガードはゴミで汚れず、自由に動くようにしてください。

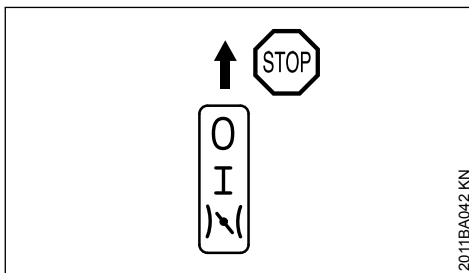
14.4 チェンブレーキの整備

チェンブレーキは普通に使っても、徐々に磨耗します。熟練した整備担当者に定期的に整備してもらうことをお勧めします。当社では整備や修理を、認定を受けた STIHL サービス店のみで依頼されることをお勧めします。次の整備期間を遵守してください。

頻繁な使用：	3 カ月毎
頻繁ではない使用：	6 カ月毎

15 エンジンの始動と停止

15.1 マスターコントロールレバーの位置



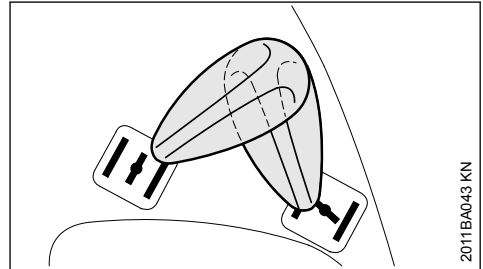
2011BA042 KN

Stop 0 - エンジン停止 - イグニッションがオフの状態。

通常運転位置(I) - エンジンが作動中または始動可能な状態。

始動スロットル 1/2 - エンジン始動用

15.2 チョークシャッターの位置



2011BA043 KN

チョークシャッター閉 1/2 - エンジン始動用の位置

- エンジンが冷えている
- 始動後にスロットルを開くとエンジンがストールする
- 燃料タンクが空になるまで運転した(エンジンが停止した)。

チョークシャッター開 1 - エンジン始動用の位置

- エンジン暖機後(エンジンを約1分間作動させた)
- エンジンが初爆した
- 燃料を吸い込みすぎた燃焼室を換気した

15.3 マスターコントロールレバーの調整

マスターコントロールレバーを通常作動位置 (I) から始動スロットル位置 (1/2) に動かすには、スロットルトリガーロックアウトを押しながらスロットルトリガーを握り、そのまま保持します。マスターコントロールレバーの操作が可能になります。

スロットルトリガーロックアウトを押しながらスロットルトリガーを軽く握ると、マスターコントロールレバーは始動スロットル位置 (1/2) から運転位置 (I) に合います。

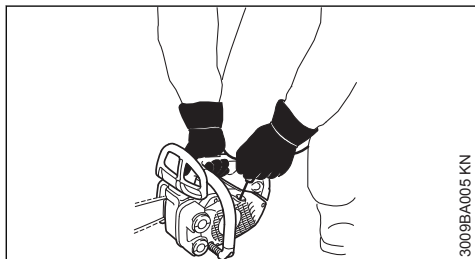
エンジンを停止するには、マスターコントロールレバーを停止位置 0 に合わせます。

15.4 手動燃料ポンプ

- 次の場合には手動燃料ポンプを押します。
 - エンジンの初回始動時

- 燃料タンクが空になるまで運転した(エンジンが停止した)。

15.5 チェンソーの保持



3009BA005 KN

- ▶ チェンソーを地面に置きます。足場が安定しているか確認します。チェンソーが物体や地面に接触していないか点検します。
- ▶ チェンソーのコントロールハンドルを右手で確実に保持します。
- ▶ キャブレターカバーを右ひざで抑えます。

15.6 始動

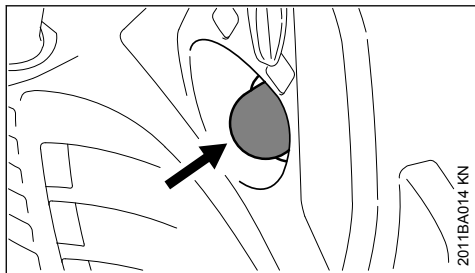
- ▶ スターターグリップを右手でゆっくりと引き、かみ合った感じがした時点で勢よく引っ張ります。その際は、前ハンドルを押し下げてください。スターターロープは最後まで引き出さないでください。切れるおそれがあります。スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジングにゆっくりと巻き込むと、スターターロープは適切に巻き込まれます。

15.7 チェンソーの始動



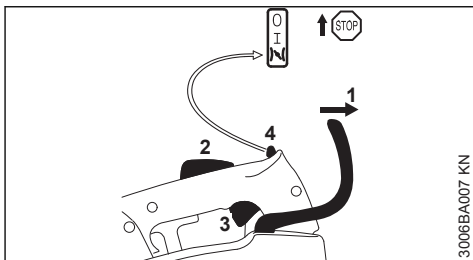
警告

見物人にはチェンソー使用場所から十分に離れるよう指示してください。



2011BA014 KN

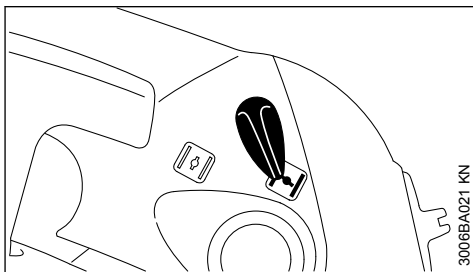
- ▶ 手動燃料ポンプを9回以上押します。ポンプに燃料が充填されている場合でも同様の操作を行ってください。



3006BA007 KN

- ▶ ハンドガード (1) を前側に押しします。チェンソーがロックされます。
- ▶ トリガーロックアウト (2) を押しながら、スロットルトリガー (3) を握ります。マスターコントロールレバー (4) を始動スロットル位置 (↑) に合わせます。
- ▶ チョークレバーを必要な位置に合わせます。

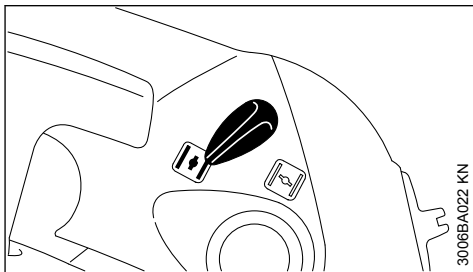
チョークシャッター閉位置 (↓)



3006BA021 KN

- エンジン冷間時 (始動後にスロットルを開くとエンジンがストールする場合)

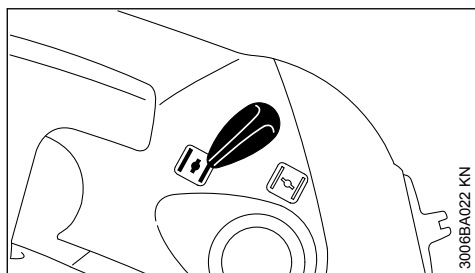
チョークシャッター開位置 (↑)



3006BA022 KN

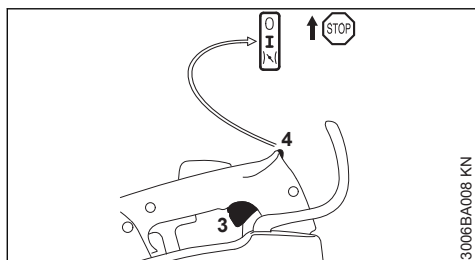
- エンジン暖機後(エンジンを約1分間作動させた)
- ▶ 指示どおりにチェンソーを保持し、始動します。

15.8 エンジンが初爆したら

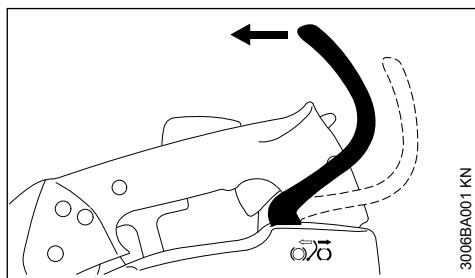


- ▶ チョークレバーを開位置 (I+) に合わせます。
- ▶ 指示どおりにチェンソーを保持し、始動します。

15.9 エンジン始動直後



- ▶ トリガーロックアウトを押し下げ、スロットルトリガー (3) を軽く握ります。マスターコントロールレバー (4) が運転位置 (FI) に戻り、エンジンはアイドリング回転になります。



- ▶ ハンドガードをコントロールハンドルの方に引き、チェンブレイキを解除します。

注記

チェンブレイキが解除されたときのみスロットルを握ってください。チェンブレイキが掛かった状態 (ソーチェンが停止した状態) でエンジン回転数を上げると、クラッチとチェンブレイキが短時間で損傷します。

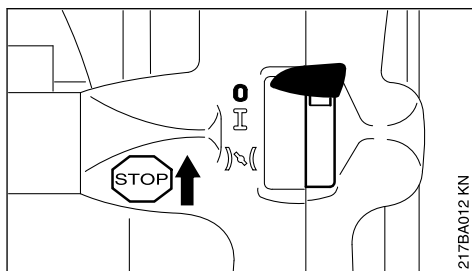
- ▶ 冷間始動後は、回転数を変化させてエンジンを暖機します。チェンソーの運転準備が整います。

15.10 外気温が極めて低いときは

アイドリング回転数が不規則か、加速性能が低下している場合

- ▶ 必要に応じてキャブレターを調整します。「キャブレターの調整」を参照してください。
- ▶ チェンソーの温度が極めて低い (機械に霜や氷が付いた) ときは、エンジンを始動し、(チェンブレイキを解除して)アイドリング回転数を高く維持し、標準作動温度まで暖機してください。

15.11 エンジン切るには



- ▶ マスターコントロールレバーを停止位置 0 に合わせます。

15.12 エンジンが始動しないときは

エンジンの初爆後、チョークレバーをチョーク開位置 (I+) からチョーク開位置 (I+) にすぐに動かさないと、エンジンが燃料を吸い込みすぎるおそれがあります。

- ▶ マスターコントロールレバーを停止位置 0 に合わせます。
- ▶ スパークプラグを取り外します。「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ スパークプラグを乾かします。
- ▶ 燃焼室を換気するためにスターターロープを数回引っ張ります。
- ▶ スパークプラグを再び取り付けます。「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ マスターコントロールレバーを始動スロットル I+ 位置に合わせます。エンジンが冷えている場合でも同様です。

- ▶ エンジンを再始動します。

15.13 燃料タンクが完全に空になるまで運転してから再給油した場合

- ▶ 手動燃料ポンプを9回以上押します。
- ▶ マスターコントロールレバーを始動スロットル位置 (I\I) に合わせます。
- ▶ チョークレバーを閉位置 (I-I) に合わせます。
- ▶ 始動操作を2回繰り返します。
- ▶ チョークレバーを開位置 (I+I) に合わせます。
- ▶ エンジンを再始動します。

16 作業中の注意事項

16.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料3タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はショートブロックの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク5~15回分の使用後となります。

16.2 作業中

注記

出力を増そうとして混合比を薄くしてはいけません。エンジンを損傷することがあります。「キャブレターの調整」の項を参照してください。

注記

チェンブレイキが解除されたときのみスロットルを握ります。チェンブレイキがロックしている状態(チェンはロックした状態)でエンジン回転数を高くすると、短時間でショートブロックやチェン駆動部(クラッチ、チェンブレイキ)を損傷します。

16.2.1 チェンの張りを時々点検してください!

長期間使用しているソーチェンに比べて、新しいソーチェンは頻繁に張り直してください。

16.2.2 チェンが冷えている場合:

チェンがバーの下部に軽く触れるが、手で回せるくらいが正しい張り方です。必要に応じて、チェンの張りを再調整します。「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

16.2.3 作業温度のチェン:

チェンが伸びてたわんできます。ドライブリンクがバーの下側のバーの溝から出はいけませ

ん- そうしないと、チェンがバーから飛び出すことがあります。チェンの張りを再調整します。「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

注記

チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、クランクシャフトとベアリングを損傷することがあります。

16.2.4 長時間のフルスロットル運転後

長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

16.3 作業後

- ▶ 作業中に暖まったチェンの張りを調整した場合、作業終了後にチェンを緩めてください。

注記

作業が終了したらチェンは必ず緩めてください。チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、クランクシャフトとベアリングを損傷することがあります。

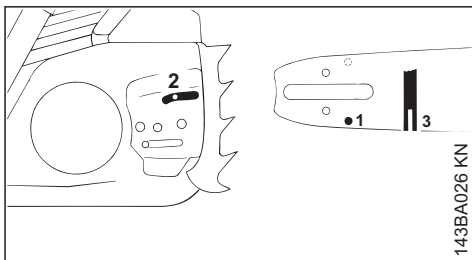
16.3.1 短期間の保管

エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを一杯にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。

16.3.2 長期間の保管

「機械の保管」を参照

17 ガイドバーの保守



- ▶ チェンの目立てや交換を行うたびにガイドバーを裏返しにします。それにより片側(特にバーの先端や下側)のみの摩擦を防ぐことができます。
- ▶ オイル供給穴(1)、オイル流路(2)、バーの溝(3)は定期的に清掃してください。

- ▶ 切断に最も使用するガイドバー部分の溝の深さをファイリングゲージ (特殊アクセサリ) の目盛で測定します。

チェーンの種類	チェーンのピッチ	溝の最低深さ
Picco(ピッコ)	1/4" P	4.0 mm
Rapid(ラピッド)	1/4"	4.0 mm
Picco(ピッコ)	3/8" P	5.0 mm
Rapid(ラピッド)	3/8"、0.325"	6.0 mm
Rapid(ラピッド)	0.404"	7.0 mm

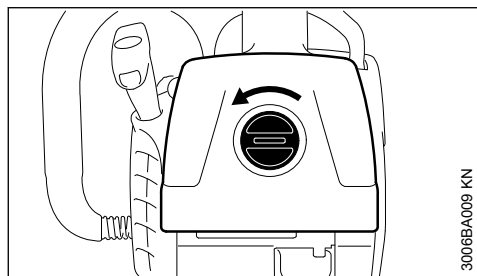
溝の深さが規定値よりも浅い場合：

- ▶ ガイドバーを交換します。

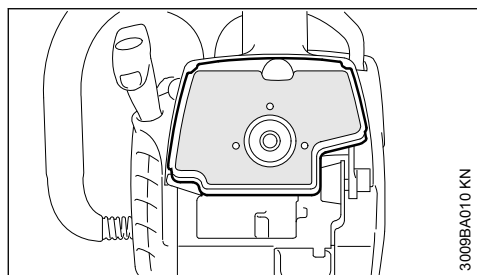
交換しないと、ドライリンクタンクが溝の底部を擦るようになり、カッターとタイストラップがバーレールに載らなくなります。

18 エアフィルターの掃除

18.1 エンジンの出力が著しく低下した場合



- ▶ ツイスト ロックを反時計回りに 90° 回します。
- ▶ シュラウドを上を外します。



- ▶ エア フィルターを上を外します。
- ▶ フィルターを、STIHL 特殊洗浄剤 (特殊アクセサリ) またはきれいな不燃性の溶液 (例: ぬるい石けん水) で洗浄し、乾かします。

注記

ブラシを使用してフィルターを掃除しないでください。

損傷したフィルターは必ず交換してください。

19 キャブレターの調整

19.1 基本情報

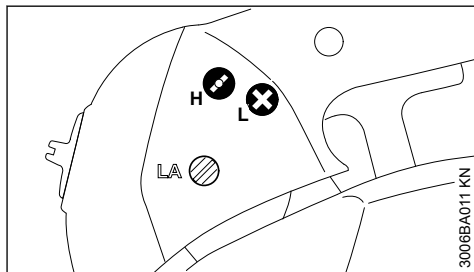
キャブレターは工場出荷時に標準設定されています。

この設定で、ほとんどの運転状況で最適な混合気が得られます。

19.2 準備

- ▶ エンジンを停止してください。
- ▶ エアフィルターを点検し、必要場合は掃除あるいは新品と交換します。
- ▶ マフラーのスパークアレスタースクリーン (すべてのモデルには該当しない、国によって異なります) を点検し、必要場合は掃除あるいは新品と交換します。

19.3 標準設定

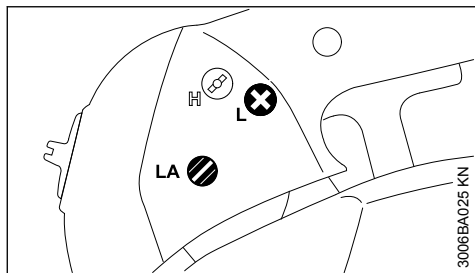


- ▶ 高速調整スクリー (H) を反時計方向に止まるまで回します (最高でも 3/4 回転)。
- ▶ 低速調整スクリー (L) を時計方向に、止まるま回します。その後、1/4 回転戻します。

19.4 アイドリング回転の調整。

- ▶ 標準設定を行います。
- ▶ エンジンを始動します。

エンジンを暖機運転します。アイドル回転数を調整する前に、エンジンを 10 秒間アイドル回転させます。



3006BA025 KN

アイドルリング回転中にエンジンが停止する。

- ▶ アイドリングスピード調整スクリュー (LA) をチェンが動き始めるまで時計方向に回した後、4 回転戻します。

エンジンのアイドルリング中にソーチェンが回転する

- ▶ アイドリングスピード調整スクリュー (LA) をチェンが停止するまで反時計方向に回した後、アイドルリング回転数でエンジンを 10 秒間回転させます。
- ▶ アイドリングスピード調整スクリュー (LA) をチェンが動き始めるまで時計方向に回した後、4 回転戻します。

警告

エンジンのアイドルリング回転時にチェンが回転し続ける場合、STIHL サービス店に点検と修理を依頼してください。

低速調整スクリューが標準設定に正しく設定されていてもにもかかわらずアイドルリングが不安定で、加速が悪い場合。

アイドルリング設定が薄すぎます：

- ▶ 低速調整スクリュー (L) を最高でも止まるまで、スムーズに作動し滑らかに加速するようになるまで、反時計回りに慎重に回します。

低速調整スクリュー (L) を調整する度に、大抵の場合は、アイドルリングスピード調整スクリュー (LA) を設定変更する必要があります。

19.5 高地で作業する場合の微調整。

エンジン性能が充分でない場合は、わずかな調整が必要になる場合があります：

- ▶ 標準設定を行います。
- ▶ エンジンを暖機運転します。
- ▶ 高速調整スクリュー (H) を僅かに時計回り (薄くする) に回します - 止まるまでの範囲で回します。

注記

高地から降りてきた後は、キャブレターを標準設定に戻します。

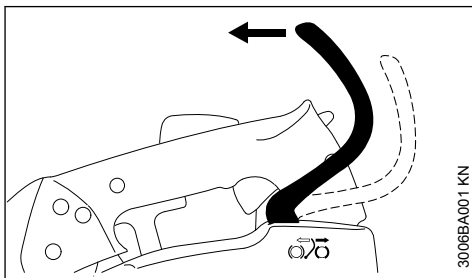
設定を薄くしすぎると、潤滑オイルの不足と過熱により、エンジンが破損する危険があります。

20 スパーク プラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドルリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

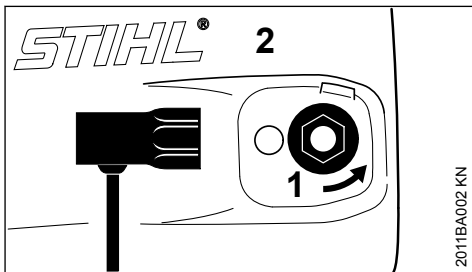
20.1 スパーク プラグの取り外し

- ▶ マスターコントロールレバーを 0 または STOP に移動します。



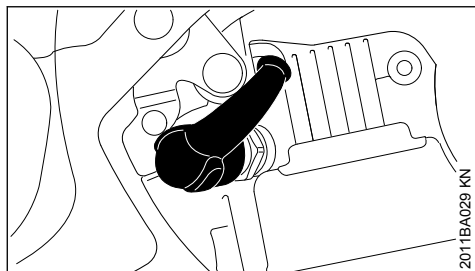
3006BA001 KN

- ▶ チェンブレーキを解除します。



2011BA002 KN

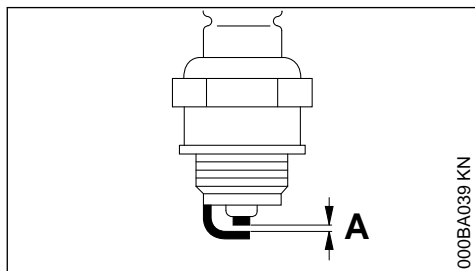
- ▶ ナット (1) を緩めて、スプロケット カバー (2) を取り外します。



2011BA029 KN

- ▶ スパークプラグ ターミナルを抜き取ります。
- ▶ スパーク プラグを緩めます。

20.2 スパークプラグの点検

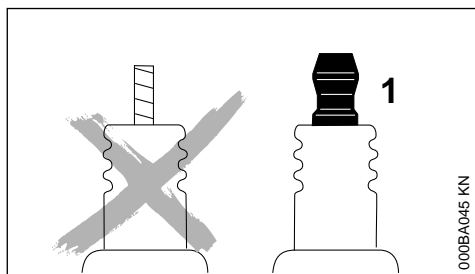


000BA039 KN

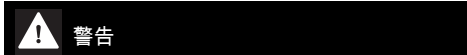
- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアークフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



000BA045 KN



アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアーグが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

20.3 スパークプラグを取り付けます。

- ▶ スパークプラグを取り付け、スパークプラグターミナルを(しっかりと押し込んで)接続します - 逆の手順で、他の部品をすべて取り付けます。

21 機械の保管

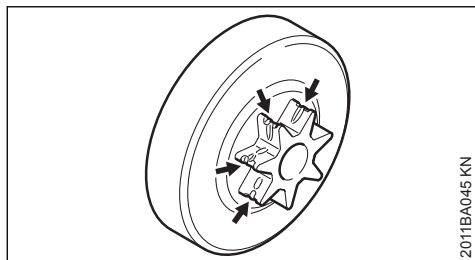
30 日以上保管時

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合は、手動燃料ポンプを 5 回以上押しします。
- ▶ エンジンを始動し、停止するまでアイドルングさせます。
- ▶ ソーチェンとガイドバーを取り外します。掃除して、保護オイルを吹き付けます
- ▶ 機械を丁寧に掃除します - 特にシリンダーフィンとエアークフィルターに注意します
- ▶ 生分解チェン オイル (STIHL バイオプラスなど) を使用するときときは、オイルタンクいっぱいにはオイルを入れます
- ▶ 機械を乾いた安全な場所に保管します。子供や他の無断使用者の手の届かない場所に保管してください。

22 チェン sprocketの点検

- ▶ チェンブレーキを解除します。ハンドガードを前ハンドルの方向に引きます。
- ▶ チェン sprocket カバー、ソーチェン、ガイドバーを取り外します。

22.1 チェンスプロケットの交換



2011BA045 KN

- ソーチェン 2 本の使用後に交換してください。または
- チェンの寿命が短くなるため、スプロケット上の摩耗マーク (矢印) の深さが約 0.5 mm を超えた時点で直ちに交換してください。ゲージ (特殊アクセサリ) を使用して、摩耗マークの深さを点検します。

2 本のソーチェンを交互に使用すると、チェンスプロケットの寿命が延びます。

STIHL 社では、チェンブレイキから性能を最大限に引き出すために STIHL 純正チェンスプロケットの使用を推奨しています。

チェンスプロケットの交換は STIHL サービス店に依頼してください。STIHL 社では、整備や修理を STIHL 認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。

23 ソーチェンの整備と目立て

23.1 ソーチェンを正しく目立てして楽に切断作業を行う

正しく目立てされたチェンを使うと、ほんの少し押すだけで楽に木材を切ることができます。

切れ味が悪いまたは損傷しているソーチェンを使用しないでください - 身体に大きな負担がかかり、振動が激しく、切断状態が悪く、摩耗が早くなります。

- ▶ ソーチェンの汚れを取り除きます
- ▶ ソーチェンの亀裂およびリベットの損傷を点検します
- ▶ 損傷または磨耗しているチェン構成部品を交換して、形状および磨耗に関して残存部分に適合するようにします - 状態に応じて再加工します

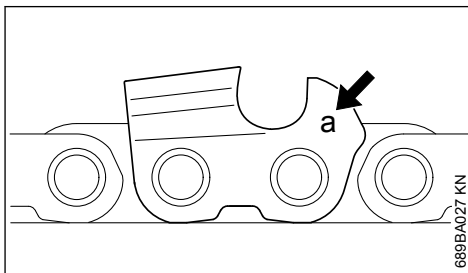
超硬チップ付き (デュロ) ソーチェンは、特に耐摩耗性が強くなっています。最適な目立てをするには、スチールではスチール サービス店をお勧めします。



警告

下記の角度と寸法に適合することが絶対に必要です。目立てが不適切なソーチェン (特にデプスゲージが低すぎる) では、チェンソーがキックバックを起こしやすくなります - **ケガの危険!**

23.2 チェンのピッチ



689BA027 KN

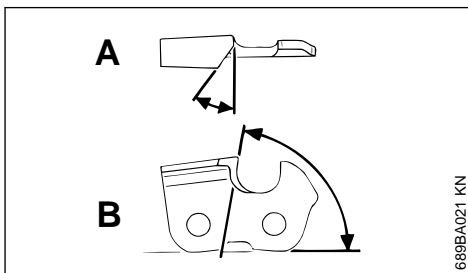
チェンのピッチのマーキング (a) が、個々のカッターのデプスゲージの部分に刻印されています。

マーキング (a)	チェンのピッチ インチ	mm
7	1/4 P	6.35
1 または 1/4	1/4	6.35
6、P または PM	3/8 P	9.32
2 または 325	0.325	8.25
3 または 3/8	3/8	9.32
4 または 404	0.404	10.26

使用するヤスリの直径は、チェンピッチによって異なります - 表「目立工具」を参照してください。

カッターの角度は、目立てをする間維持する必要があります。

23.3 上刃・横刃目立て角度



689BA021 KN

A 上刃目立て角度

スチールソーチェンは、上刃目立て角度 30 度で目立てします。リッピングチェンは例外で、上刃目立て角度が 10 度です。リッピングチェンは名称に X が含まれます。

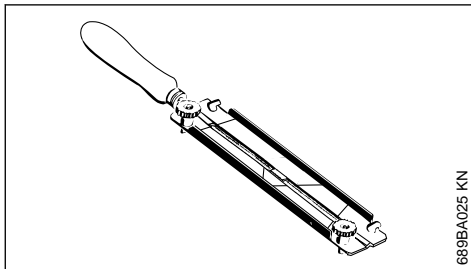
B 横刃目立て角度

指定されたファイルホルダーおよびファイル直径を使用すると、自動的に適切な横刃目立て角度になります。

刃の形状	角度(°)	
	A	B
マイクロ = セミチゼル歯、 63 PM3、26 RM3、36 RM など	30	75
スーパー = フルチゼル歯、 63 PS3、26 RS、36 RS3 など	30	60
リッピングチェーン、63 PMX、 36 RMX など	10	75

カッターの角度は、ソーチェンのすべてで同じにする必要があります。角度が一定でない場合：ソーチェンの動作が雑で不均等で、磨耗が早く、ソーチェンが破損することさえあります。

23.4 ファイルホルダー



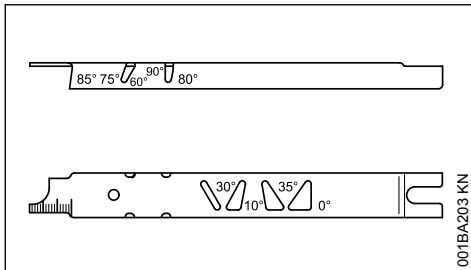
689BA025 KN

▶ ファイルホルダーの使用

手でソーチェンを目立てするときは、必ずファイルホルダー(特殊アクセサリ、表「目立工具」を参照)を使用します。ファイルホルダーには、目立て角度のマーキングがあります。

専用のチェーンソーヤスリを使用してください!
他のヤスリは切断の形状とタイプに関して不適切です。

23.5 角度を確認するには



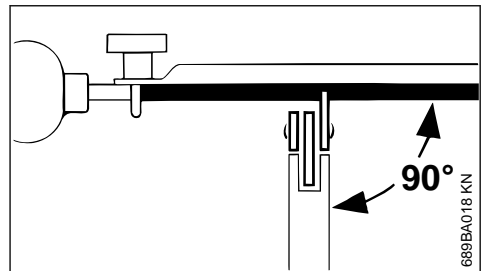
001BA203 KN

スチールファイリングゲージ(特殊アクセサリ、表「目立工具」を参照)を使用します - 上刃・横刃目立角、デプスゲージの設定、および刃の長

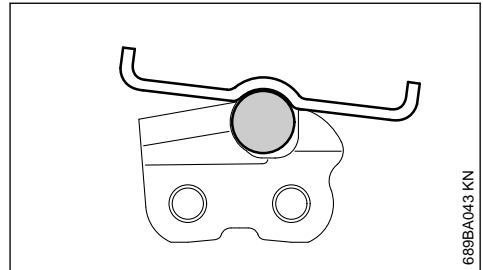
さの点検、さらに溝とオイル孔の掃除に使える、便利な汎用ゲージです。

23.6 正しい目立

- ▶ チェンピッチに合った目立ツールを選びます
- ▶ 必要に応じてガイドバーを固定します
- ▶ ソーチェンをブロックします - ハンドガードを前方に押しします
- ▶ ソーチェンを進めるには、ハンドガードをハンドルバーに向けて引きます：チェーンブレーキが解除されます。クイックストップスパーチェーンブレーキシステムでは、さらにスロットトリガーロックアウトを押します
- ▶ 目立てを頻繁に行い、ほんのわずかに刃先を擦ります - 簡単な目立てには、通常、ヤスリを2、3回当てるだけで十分です



689BA018 KN



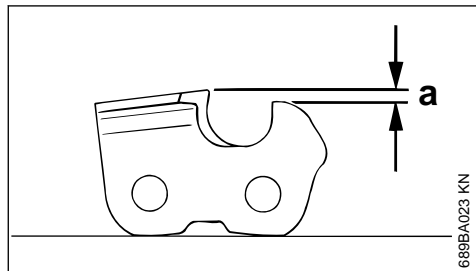
689BA043 KN

- ▶ ヤスリの位置：ファイルホルダーのマーキングで指定された角度で水平方向(ガイドバーの側面に対して直角)に、ファイルホルダーを刃とデプスゲージの上に置きます
 - ▶ 必ず内側から外側に向けてヤスリをかけます
 - ▶ ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします - 後方ストロークのときはヤスリを少し離します
 - ▶ タイストラップおよびドライブリンクにヤスリをかけないでください
 - ▶ 定期的にヤスリを少し回して、不均等に磨耗しないようにします
 - ▶ ヤスリのバリを取り除くには、硬木の小片を使用します
 - ▶ ファイリングゲージで角度を確認します
- すべてのカッターの長さを同じにします。

カッターの長さが異なると、刃の高さも異なり、ソーチェンの動作が荒くなり、チェンが破損することがあります。

- ▶ すべてのカッターを最も短いカッターと同じ長さに仕上げます - 理想的には電動式目立機を使用するサービス店で実施します

23.7 デプス ゲージの設定



デプス ゲージによって、カッターが木に食い込む深さ、つまり切りくずの厚さが決まります。

a デプス ゲージとカッター先端の間の必要な距離

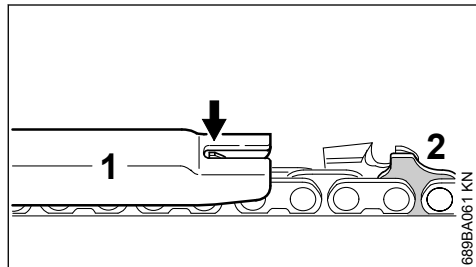
霜がないときに軟らかい木を切断する場合は、距離を最大 0.2 mm (0.008") 増やすことができます。

チェンのピッチ		デプス ゲージ 距離 (a)	
インチ	(mm)	mm	(インチ)
1/4 P	(6.35)	0.45	(0.018)
1/4	(6.35)	0.65	(0.026)
3/8 P	(9.32)	0.65	(0.026)
0.325	(8.25)	0.65	(0.026)
3/8	(9.32)	0.65	(0.026)
0.404	(10.26)	0.80	(0.031)

23.8 デプス ゲージを低くする

カッターの目立てを行うと、デプス 量が小さくなります。

- ▶ 目立てを行うたびにデプス ゲージの設定を確認します



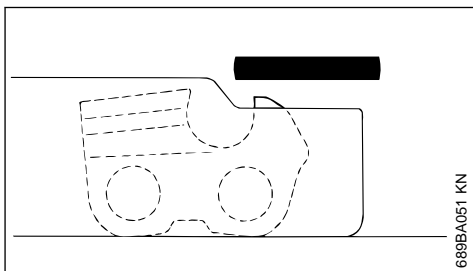
- ▶ チェンピッチに適切なファイル ゲージ (1) をソーチェンに載せ、確認するカッターに押しつ

けます - デプス ゲージがファイル ゲージより突き出ている場合、デプス ゲージを再加工する必要があります

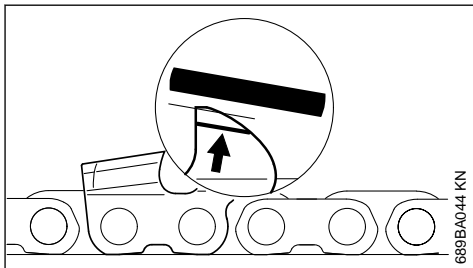
セーフティドライブ リンクが付いたソーチェン (2) - セーフティドライブ リンクの上 (2) (サービスマーキング付き) はカッターのデプス ゲージと一緒に下がります。



セーフティドライブ リンクの残りの部分は、目立てしてはいけません。チェンソーがキックバックを起こす危険性が高まる可能性があります。



- ▶ デプス ゲージを加工し、ファイル ゲージと揃うようにします

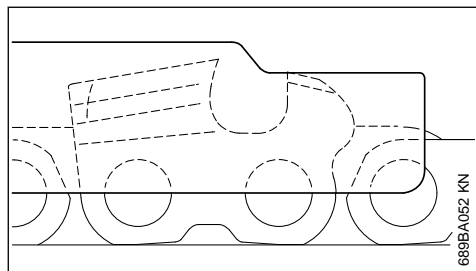


- ▶ その後、デプス ゲージの先端をサービスマーク (矢印を参照) と平行になるようにドレッシングします - その際、デプス ゲージの最も高い位置が、さらに後方にずれないように注意します



警告

デプスゲージが低すぎると、チェーンソーがキックバックを起しやすくなります。



- ▶ ファイルゲージをソーチェンに載せます - デプスゲージの最も高い位置がファイルゲージと一致しなければなりません
- ▶ 目立てが終了したら、ソーチェンをよく洗浄し、ヤスリやグラインダーの切削分を除いて、十分に潤滑油を塗布します
- ▶ 長期間使用しない場合、ソーチェンを洗浄して、潤滑油を塗布した状態で保管します

目立工具 (特殊アクセサリ)

チェーンのピッチ		丸ヤスリφ	丸ヤスリ	ファイルホルダー	ファイルゲージ	平ヤスリ	目立セット ¹⁾						
インチ	(mm)	mm	(インチ)	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号						
1/4P	(6.35)	3.2	(1/8)	5605 771 3206	5605 750 4300	0000 893 4005	0814 252 3356	5605 007 1000					
1/4	(6.35)	4.0	(5/32)	5605 772	4006	5605 750	4327	1110 893	4000	0814 252	3356	5605 007	1027
3/8 P	(9.32)	4.0	(5/32)	5605 772	4006	5605 750	4327	1110 893	4000	0814 252	3356	5605 007	1027
0.325	(8.25)	4.8	(3/16)	5605 772	4806	5605 750	4328	1110 893	4000	0814 252	3356	5605 007	1028
3/8	(9.32)	5.2	(13/64)	5605 772	5206	5605 750	4329	1110 893	4000	0814 252	3356	5605 007	1029
0.404	(10.26)	5.5	(7/32)	5605 772	5506	5605 750	4330	1106 893	4000	0814 252	3356	5605 007	1030

¹⁾丸ヤスリ、平ヤスリ、ファイリングゲージ付きファイルホルダーで構成

24 整備表

次の整備周期は通常の作業条件を対象としています。過酷な条件下(粉塵の蓄積量が多い、樹脂分の多い木材を切断する、熱帯樹からの木材を切断する等)で作業を行うか、毎日の作業時間が通常よりも長い場合は、それに応じて表に示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		高	日	時	毎	毎	毎	時	時	必要に応じて
		週	毎	週	月	年	故	損		
		作	作	燃						
		業	業	料						
		終	終	ポン						
		了	了	プ						
		後	後	の						
		ま	ま	燃						
		だ	だ	料						
		ら	ら	タン						
		の	の	クの						
		後	後	燃						
		の	の	料						
		後	後	ピ						
		ま	ま	ック						
		だ	だ	ア						
		ら	ら	ッ						
		の	の	ポ						
		後	後	テ						
		の	の	ィ						
		後	後	ル						
		の	の	タ						
		後	後	ン						
		の	の	ク						
		後	後	エ						
		の	の	レ						
		後	後	ン						
		の	の	ト						
		後	後	の						
		の	の	空						
		後	後	気						
		の	の	吸						
		後	後	入						
		の	の	口						
		後	後							
機械本体	目視検査(状態、漏れ)	X		X						
	清掃		X							
スロットトリガー、スロットトリガーロックアウト、チョークレバー、停止スイッチ、マスターコントロールレバー(装置によって異なる)	機能テスト	X		X						
	機能テスト	X		X						
チェンブレーキ	点検はサービス店に依頼してください ¹⁾									X
	点検	X								
手動燃料ポンプ(装備モデルのみ)	修理はサービス店に依頼してください ¹⁾									X
	点検	X								
燃料タンクの燃料ピックアップポディ/フィルター	点検					X				
	洗浄、フィルターインサートの交換					X		X		
	交換						X		X	X
燃料タンク	清掃					X				
チェンオイルタンク	清掃					X				
チェンオイル	点検	X								
ソーチェン	点検、切れ具合を確認	X		X						
	ソーチェンの張りの点検	X		X						
	目立て									X
ガイドバー	点検(摩耗、損傷)	X								
	掃除し、裏返す									X
	バリ取り					X				
	交換								X	X
チェンスプロケット	点検				X					
エアフィルター	清掃							X		X
	交換								X	
防振エレメント	点検	X						X		
	交換はサービス店に依頼してください ¹⁾								X	
ファンハウジングの空気吸入口	清掃		X		X					X

¹⁾ STIHL 社では、STIHL サービス店に依頼されることをお勧めしています

²⁾ プロ用チェンソー(出力 3.4 kW 以上)の初回使用時は、10~20 時間の使用後、シリンダーブロックスクリューを締め直してください

次の整備周期は通常の作業条件を対象としています。過酷な条件下(粉塵の蓄積量が多い、樹脂分の多い木材を切断する、熱帯樹からの木材を切断する等)で作業を行うか、毎日の作業時間が通常よりも長い場合は、それに応じて表に示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		高負荷作業	毎日作業終了後または毎週	毎週	毎月	毎年	時故障	時損傷	上記に必要に応じて
シリンダーフィン	清掃		X		X				X
キャブレター	アイドル調整の確認 - ソーチェンが回らないこと	X	X						
	アイドル回転数の設定。必要に応じてサービス店に修理を依頼してください ¹⁾								X
スパークプラグ	電極ギャップの調整						X		
	100 運転時間ごとに交換								
手の届くスクリューとナット(調整スクリューを除く)	締め付ける ²⁾								X
チェンキャッチャー	点検	X							
	交換							X	
安全情報ラベル	交換							X	

25 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリの使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

25.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

¹⁾ STIHL 社では、STIHL サービス店に依頼されることをお勧めしています

²⁾ プロ用チェンソー(出力 3.4 kW 以上)の初回使用時は、10~20 時間の使用後、シリンダーブロックスクリューを締め直してください

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

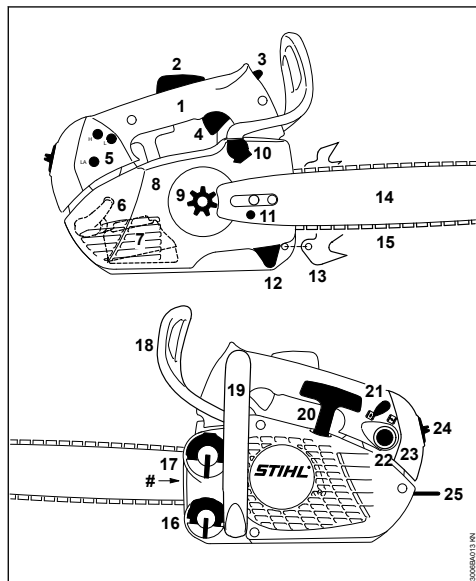
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エア フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンダー フィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

25.2 磨耗部品

カットオフソーの部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- ソーチェン、ガイドバー
- 駆動部品(クラッチ、クラッチドラム、チェン sprocket)
- フィルター(エアフィルター、オイルフィルター、燃料フィルター)
- リワインドスターター
- スパークプラグ
- 防振システムのコンポーネント

26 主要構成部品



- 1 コントロールハンドル
- 2 スロットルトリガーロックアウト
- 3 マスターコントロールレバー
- 4 スロットルトリガー
- 5 キャブレター調整スクリュー
- 6 スパークプラグターミナル
- 7 マフラー
- 8 チェン sprocket カバー
- 9 チェン sprocket
- 10 チェンブレーキ
- 11 チェンテンショナー
- 12 チェンキャッチャー
- 13 パンパースパイク¹⁾

- 14 ガイドバー
 - 15 オイロマチックチェン
 - 16 オイルタンクキャップ
 - 17 燃料タンクキャップ
 - 18 ハンドガード
 - 19 ハンドルバー
 - 20 スターターグリップ
 - 21 チョークレバー
 - 22 パージャポンプ
 - 23 キャブレターボックスカバー
 - 24 キャブレターボックスカバーのツイストロック
 - 25 ロープ用リング
- # 機械番号

27 技術仕様

27.1 エンジン

単気筒2ストロークエンジン

排気量:	23.6 cm ³
シリンダー径:	34 mm
ピストンストローク:	26 mm
ISO 7293 に準拠した出力:	1.1 kW (1.5 PS)
	10000 rpm 時
アイドリング回転数:	1 3000 rpm

27.2 イグニッションシステム

エレクトロニクスマグネットイグニッション

スパークプラグ (雑音防 止):	NGK CMR 6 H, BOSCH USR 4AC
電極ギャップ:	0.5 mm

27.3 燃料システム

燃料ポンプ搭載全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量:	200 cm ³ (0.2 l)
----------	-----------------------------

27.4 チェンオイル

回転数に依存した全自動オイルポンプ

オイルタンク容量:	150 cm ³ (0.15 l)
-----------	------------------------------

27.5 重量

燃料なし、カッティングセットなしの状態

¹⁾ 特殊アクセサリとして入手可能です

¹⁾ ISO 11681 準拠 (+/- 50 rpm)

MS 151 TC: 2.6 kg

27.6 カuttingセット

実際の切断長は、指定された切断長より短い場合があります。

27.6.1 ガイドバー Rollomatic E Mini

切断長: 25、30 cm
 ピッチ: 1/4" P (6.35 mm)
 溝幅: 1.1 mm
 ノーズプロケット: 8 枚歯

27.6.2 ガイドバー Carving E

切断長: 30 cm
 ピッチ: 1/4" P (6.35 mm)
 溝幅: 1.1 mm

27.6.3 ソーチェン 1/4" P

Picco Micro 3 (71 PM3) タイプ 3670
 ピッチ: 1/4" P (6.35 mm)
 ドライブリンク厚: 1.1 mm

27.6.4 チェンスプロケット

8 枚歯、1/4"用 (プロファイルチェンスプロケット)
 最大チェンスピード (ISO 11681 22.5 m/s 準拠):
 最大出力時のチェンスピード: 16.9 m/s

27.7 騒音・振動数値

振動に関する事業者への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

www.stihl.com/vib をご覧ください。

27.7.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}
 96 dB(A)

27.7.2 ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル $L_{w eq}$
 107 dB(A)

27.7.3 ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv, eq}$

左ハンドル: 4.9 m/s²
 右ハンドル: 4.9 m/s²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

27.8 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

www.stihl.com

27.9 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -

www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

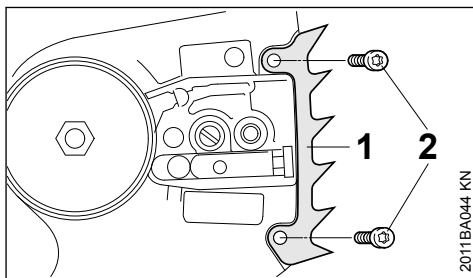
適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。

28 特殊アクセサリ

- バンパー スパイク
- 丸ヤスリ付きファイルホルダー
- ファイリングゲージ
- ゲージ
- STIHL 潤滑グリース
- 給油用 STIHL フィラーノズル - 給油時にこぼしたり、入れすぎたりしないために使用します
- チェンオイル用 STIHL フィラーノズル - こぼしたり、入れすぎたりしないために使用します

上記およびその他の特殊アクセサリに関する最新の情報は、STIHL 製品販売店へお問い合わせください。

28.1 バンパー スパイクを取り付けます。



- ▶ バンパー スパイク (1) を、2 つのスクリュー (2) を使用してしっかりとエンジンハウジングに固定します。

29 スペア パーツのご注文

お客様のチェーンソーの機種、機械番号、およびガイドバーとソーチェンの部品番号を、下に準備したスペースにご記入ください。これは、次にご注文いただくときに便利です。

ガイドバー、ソーチェンは消耗部品です。これらの部品を注文するとき、型式、部品番号、部品名を明記してください。

機種

機械番号

ガイドバー部品番号

ソーチェン部品番号


30 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

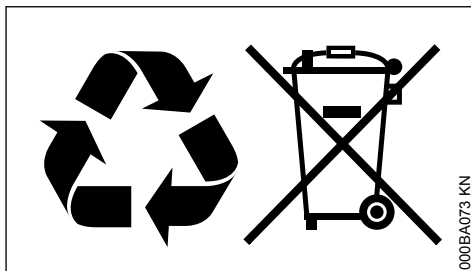
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL**ロゴマークおよびスチール部品シンボルマーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

31 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

32 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

モデル :	チェーンソー
製造ブランド :	STIHL
タイプ :	MS 151 TC
シリアル番号	1146
排気量 :	23.6 cm ³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版に準拠して開発および製造されたことを保証いたします：

EN ISO 11681-2、EN 61000-6-1、EN 55012

音響出力レベルは、測定値並びに保証値共に、指令 2000/14/EC の付属書 V の規定、および ISO 9207 基準に従って決定されています。

音響出力レベル測定値

MS 151 TC 109 dB(A)

音響出力レベル保証値

MS 151 TC 111 dB(A)

EC 型式検査の実施者

DPLF

Deutsche Prüf- und Zertifizierungsstelle für Land- und Forsttechnik GbR (NB 0363)

Spremlberger Straße 1
D-64823 Groß-Umstadt

証明書番号

K-EG-2018/8636

技術文書の保管：

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2022年8月1日、Waiblingenにて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations

CE

33 UKCA 適合宣言

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Badstr. 115
D-71336 Waiblingen
Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

モデル:	チェンソー
製造ブランド:	STIHL
タイプ:	MS 151 TC
シリアル番号	1146
排気量:	23.6 cm ³

英国規則 The Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Regulations 2012、Supply of Machinery (Safety) Regulations 2008、Electromagnetic Compatibility Regulations 2016、Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001 の関連する条項に適合しており、製造日時時点で有効であった以下の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 11681-2、EN 61000-6-1、EN 55012

音響出力レベルは、測定値および保証値共に、Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001 の付属書 8 の英国規定、および ISO 9207 基準に従って決定されています。

音響出力レベル測定値

MS 151 TC 109 dB(A)

音響出力レベル保証値

MS 151 TC 111 dB(A)

型式検査の実施者

0458-508-4321-B

Intertek Testing & Certification Ltd, Academy Place, 1 – 9 Brook Street, Brentwood Essex, CM14 5NQ, United Kingdom

証明書番号

UK-MCR-0064

技術文書の保管:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2022年8月1日、Waiblingenにて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations

UK
CA

34 アドレス

www.stihl.com

www.stihl.com



0458-508-4321-B



0458-508-4321-B